

百人一首 上の句と下の句を線で繋ぎましょう ⑨

筑波嶺の  
峰より落つる  
男女川

人はいさ  
心も知らず  
ふるさとは

陸奥の  
しのぶもぢぢり  
誰ゆゑに

夏の夜は  
まだ宵ながら  
明けぬるを

白露に  
風の吹きしく  
秋の野は

玉の緒よ  
絶えなば絶えね  
ながらへば

つらぬきとめぬ  
玉ぞ散りける

乱れそめにし  
われならなくに

花ぞ昔の  
香に匂ひける

忍ぶることの  
弱りもぞする

恋ぞ積もりて  
淵となりぬる

雲のいづこに  
月宿るらむ